

物流コストの自動計算及び可視化による業務効率化

支払物流費・請求金額の自動計算と、BIツール連携によるデータの見える化を行うことで、物流業務改革・改善をご支援するクラウドサービス

多様化・複雑化が進む物流現場において、多くの企業が支払物流費や請求金額を正確に把握することの重要性を認識しています。しかし煩雑な計算業務が大きな負担となり、業務効率化の足かせとなっているのが現状です。「Logistics CostAnalyzer」は、その煩雑な計算業務を自動化し、正確な支払物流費や請求金額の把握を支援することで、これまで計算業務に費やしていた時間と労力を削減し業務効率の向上に貢献します。



Logistics CostAnalyzer

オフリングの概要

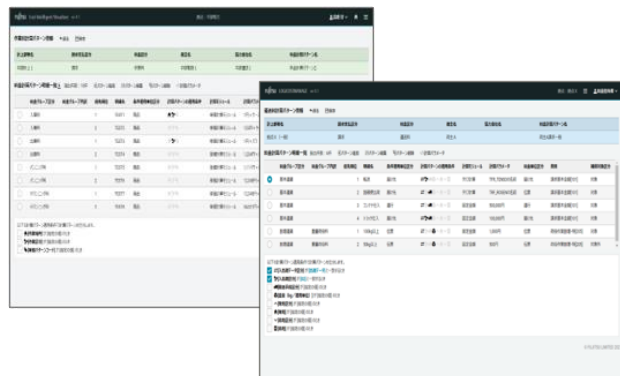
- 物流領域における長年の経験と実績に基づいた、物流費計算に特化したクラウドサービス
- 運賃や荷役料、保管料になどの幅広い物流費の算出に対応

オフリングの特長

- 汎用的な計算パターンを網羅し、複雑な料金体系にも柔軟に対応
- 自動計算機能により業務負担を軽減し人的ミスのリスクを低減
- 顧客ごとに専用環境を構築するため、カスタマイズにも対応可能

運用画面イメージ

運送、作業、保管等様々なシーンにおける物流コストの算出に対応



標準搭載のBIツールに連携し、様々な切り口でデータ可視化



導入事例：大手機械系メーカーの物流子会社様

Logistics CostAnalyzer の活用によるコスト削減及び業務効率化の実現

課題

- ・物流基幹システム内の物流費計算機能が限定的で、新規荷主の契約に伴う新しい計算パターンに対応しない場合が多く、その度システム改修もしくはアナログ運用が必要となり、コストと業務負荷の増大が課題。
- ・スクラッチ開発の現行システムでは、保守・運用に関わる業務負荷が課題となっている。特に複雑な物流費計算は特定のエキスパートに依存しており、属人化からの脱却が必要。

解決

- ・物流費計算機能を物流基幹システムから切り出しLogistics CostAnalyzerを適用。汎用的な計算パターンを網羅しているため、新規の計算パターン追加時にシステム改修のリスクを低減。
- ・クラウドサービスの(Logistics CostAnalyzer)の活用により保守・運用に関わる工数を削減。

効果

- ・複雑な料金体系であっても、標準パターンの中から条件に合ったパターンを組み合わせにより設定ができるため、これまで煩雑だった設定作業を大幅に効率化。
- ・ユーザーインターフェース（UI）が他社製品よりわかりやすく、計算パターンやタリフの事前設定を誰でも簡単に行うことが可能に。
- ・クラウドサービスを活用することにより、システム保守と運用を豊富な物流知識を有するパートナーに委託し、自社リソースを本業に集中させることができた。



お問い合わせ先

富士通株式会社
クロスインダストリーソリューション事業本部 DynamicSC事業部

[お問い合わせフォーム](#)

Unified Logisticページは[こちら](#)

